



山内 眞樹

公認会計士

昨年6月にファッションをメインにした大型モールが開業してからはや1年がたった。開店に合わせた徹夜組を含む行列ができ、周辺道路は渋滞の極みであった。新聞記事によると混雑時間帯には、安謝から車で1時間20分を要した。大型モールに集まる消費者は、何を求めているのだろうか。

買い物、食事、リゾート、ハイライフ、バリエーションなど日常を超えた何物かにひかれているのだろう。大型モールの起源は、砂漠のオアシスだといわれている。人々は砂漠の荒涼と索漠、熱気と無味乾燥から、緑と水、休息と快適を求めてオアシスに集まった。しかし、コロナ後は人々の消費行動に変化が起きるのではないだろうか。生物学において、いかに小さい淘汰にせよその有利・不利の差により導かれる選抜は、次世代において不適応な個体を排除するという重大な結果を招く。

南風

新型コロナとチャンス

小さな淘汰、Eコマースの台頭は、コロナを転機として、日々勢いを増している。ショッピングモールの大規模、集客力、価値の創出は、その存在意義を今や問われている。全国3千軒を超え、総テナント数は16万軒、年間販売額31兆円の地位は今を頂点として、この先は、さらに激しい戦いが見られるだろう。目の前に競争と淘汰の時代を迎えたのではないかと思う。

増加の傾向にあった外国人観光客の需要は激減し、しかも、全国的な人口減が進み、県内でも2025年には減少へ転じるといわれている。観光需要にも支えられた流通業界は、これまでも今後も、国内、国際情勢の変動に左右されやすいリスクを持っている。しかし、見方によっては、多くの不確定要素と淘汰は、沖縄経済の一つの「可能性」とも言える。沖縄経済、特に流通業界には「経済の崖」を克服して、新しい時代をつくるチャンスでもある。

(日刊)

2020年(令和2年)

6月20日土曜日

[[日聞4月29日・友引]]

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

第40011号

発行所 琉球新報社 ©琉球新報社2020年 〒900-8525 那覇市泉崎1-10-3 電話:098-865-5111

- ニュース・情報提供 098-865-5158
- 広告のお申し込み 0120-43-5059
- 購読・配達問い合わせ 0120-39-5069
- 本社事業案内 098-865-5253
- 読者相談室 098-865-5656